

第7章 ウトナイ湖

上田詩織

7.1 概要

ウトナイ湖は、勇払原野の北西部に位置する、周囲 9km、面積 275ha、平均水深 0.6m の淡水湖で、美々川をはじめトキサタマップなどの清流がそそぎ、湖の周辺には、原野、湿原などの豊かな自然が形成されている。このことからウトナイ湖は、動植物の宝庫、野鳥の楽園ともいわれ、現在まで 250 種を超える鳥類が確認され、バードウォッチングや自然散策、自然観察など、四季折々の自然や野鳥とのふれあいが楽しめる。特にガン、カモ類やハクチョウなどの渡り鳥にとっては重要な中継地であり、マガンやハクチョウの集団渡来地として国際的に知られている。「ウトナイ」は、アイヌ語の「小さな川の流れの集まるところ」が由来である。

図 7-1 ウトナイ湖地図



出所：道の駅 HP

7.1.1 道の駅ウトナイ湖

2009 年、苫小牧市北東部にあるラムサール条約登録湿地・ウトナイ湖畔オープンした新しい道の駅。国道 36 号線沿いにあり、空の玄関「新千歳空港」と海の玄関「苫小牧フェリーターミナル」からのアクセスが良好。こちらでは地元農場直営のレストランや、ベーカリーショップ、テイクアウトコーナーなどがあり、美味しいグルメが多数揃う。また、館内からはウトナイ湖を一望できるのも魅力。時期によっては白鳥や野鳥の姿も見ることができる。

図 7-2 道の駅ウトナイ湖



出所：道の駅 HP

7.1.2 千歳川放水路計画

千歳川放水路計画は、北海道開発庁（当時）の事業で千歳川流域の洪水防止を目的として、太平洋に注ぐ延長約 40km の巨大水路を建設し、本来、日本海に流れている千歳川の水を逆流させるというものだった。しかし水路建設予定地にはウトナイ湖などがあり自然環境への影響が大きいとして自然保護団体等が反対。1999 年に千歳川流域治水対策検討委員会による中止案がまとめられ、これにより計画中止が決定した。

表 7-1 ウトナイ湖の四季

4～5 月	・夏鳥が次々と渡ってきて子育てをする ・ナニワズの花とエゾアカガエルの卵が春を実感させる	オオシギ (オーストラリアから来る) 
6 月	・勇払原野特産のハスカップが色づく ・初夏の原野を一面エゾノコリンゴが彩る	ハスカップとエゾノコリンゴ 
7～9 月	・ホザキンモツケなどの花やさまざまなトンボやチョウなどに出会える	
10～11 月	・ヒシの実が水面に実る頃には、北からガンカモハクチョウ類が渡ってくる	
9～11 月	・秋サケ漁（9－11 月） ・ししゃも漁（11 月）	
12～2 月	・湖はほぼ全面凍り、林内ではアカゲラやカラ類などが厳しい冬を過ごす ・スケート祭りにて、氷都苫小牧を代表する冬の祭の名物は野外で食べるジンギスカン「しばれ焼き」	スケート祭りでの「しばれ焼き」 
3 月	・ワシ類と本州から北上してきたガンカモハクチョウ類でにぎわう ・ガン類は 8 万羽にのぼる	マガンのねぐら立ち 

北海道ラムサールネットワーク HP より筆者作成

表 7-2 野鳥情報

留鳥 1年中	トビ、オジロワシ、ハイタカ、ハヤブサ、エゾライチョウ、オオセグロカモメ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ヒガラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス	シジュウカラ 
夏鳥 春～秋	カイツブリ、アオサギ、コブハクチョウ、チュウヒ、コチドリ、ヤマシギ、イソシギ、オオジシギ、ウミネコ、キジバト、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ビンズイ、モズ、ノビタキ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、アオジ、オオジュリン、ベニマシコ、ニュウナイスズメ	アオサギ 
冬鳥 冬の間	ヒシクイ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オオワシ、ハイイロチュウヒ、セグロカモメ、シロカモメ、ツグミ、アトリ、マヒワ、ウソ	ヒシクイ 
旅鳥 春・秋	カンムリカイツブリ、ダイサギ、マガン、コハクチョウ、ユリカモメ、ウミウ	マガン 
迷鳥 めったに見られない	アメリカヒドリ、ヤツガシラ	ヤツガシラ 

日本野鳥の会 HP より筆者作成

7.2 ウトナイ湖と自然

7.2.1 日本野鳥の会サントクチュアリ

1981年、日本野鳥の会により、ウトナイ湖に初の野鳥のサントクチュアリ（野生鳥獣の生息の保全を目的とした場所）が設置された。現在北海道から九州まで全国に12ヶ所ある。サントクチュアリは保全だけでなく、訪れた方がその自然を直接体験する場所でもあり、レンジャーと呼ばれる専門の職員がいて、保全のための調査や自然環境の管理、自然体験の手助けなどの活動を行っている。また、サントクチュアリにはネイチャーセンターと呼ぶ拠点施設がある。ネイチャーセンターはレンジャーのさまざまな活動拠点であり、来訪者した方々への情報提供や地域の方々の活動拠点でもある。



出所：日本野鳥の会 HP

7.2.2 国指定鳥獣保護区とその制度

1982年、ウトナイ湖とその周囲、面積約510haは、国指定鳥獣保護区特別地区に定められ、渡り鳥をはじめ鳥獣を保護している。鳥獣保護区は、鳥獣の保護の見地から「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づき指定される。鳥獣保護区は、環境大臣が指定する国指定鳥獣保護区と、都道府県知事が指定する都道府県指定鳥獣保護区の2種類がある。環境大臣又は都道府県知事は、鳥獣保護区の区域内で鳥獣の保護又はその生息地の保護を図るため特に必要があると認める区域を特別保護地区に指定することができる。鳥獣保護区内においては、狩猟が禁止されるほか、特別保護地区内においては、一定の開発行為が規制される。

7.2.3 野生鳥獣保護センター

このセンターは、環境省が全国初めての野生鳥獣共生環境整備事業として建設し、環境省と苫小牧市が共同運営する施設である。展示ホールには、ウトナイ湖の自然や野鳥を紹介する多数の学習展示物が並び、また、屋内から野鳥を観察できる観察コーナー、自然観察の方法を学ぶ自然観察の手引きコーナーなどがある。レクチャールームには、150インチ大型スクリーンが設置され、ウトナイ湖の四季を紹

図 7-4 全国の国指定鳥獣保護区



出所：環境省 HP

介する。そのほかに、ボランティアやレンジャー手作りの「ウトナイ湖野鳥パズル」、「野鳥ぬりえ」「実物大ハクチョウのぬいぐるみ」など実際に手で触れたり、考えたり、親子で楽しめるような体験型の展示も設置してある。湖畔沿いには、自然観察路が整備され、野鳥や草花などの自然とふれあうことができる。

7.3 ウトナイ湖と条約

7.3.1 ラムサール条約とは

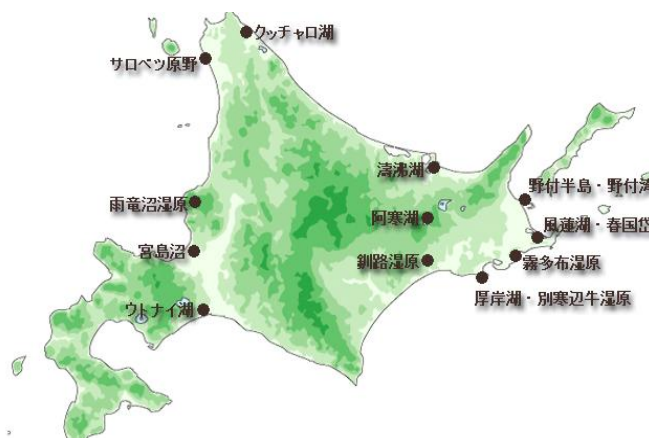
1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された。この条約は開催地にちなみ、一般に「ラムサール条約」と呼ばれている。同条約は第10条の規定により、7ヶ国が締約国になってから4ヶ月後の1975年12月21日に発効した。この条約は、特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的とし、各締約国がその領域内にある湿地を1ヶ所以上指定し、条約事務局に登録するとともに、湿地の保全及び賢明な利用促進のために各締約国がとるべき措置等について規定している。2012年8月10日現在、締約国162ヶ国、登録湿地数2046ヶ所、その合計面積は約193,553,062haに及ぶ。

7.3.2 ラムサール条約湿地

ラムサール条約では、沼沢地、湿原、泥炭地または陸水域、および水深が6mを超えない海域などを、湿地として定義している。2005年にウガンダで開かれたラムサール条約国際会議において、国内のラムサール条約登録湿地は33ヶ所となった。ウトナイ湖も日本を代表する水鳥の中継地として、日本で4番目に登録されている。日本の条約湿地数は46ヶ所、その湿地面積は137.968haである。北海道内でも新たに6箇所が登録され、合計12箇所となった。

これを機会に、お互いの登録地が協力して湿地の保全啓発や賢明な利用を進めようということから、2006年9月に全道12ヶ所の全てのラムサール登録湿地に関係する機関・団体が集まり、「北海道ラムサールネットワーク」が発足した。

図 7-5 北海道のラムサール条約登録湿地



出所：北海道ラムサールネットワーク HP

7.3.3 東アジア・オーストラリアフライウェイパートナーシップ

東アジア・オーストラリア地域において、渡り鳥にとって重要な生息地の保全を国際的に進めていく、新しい国際連携協力事業である。我が国の渡り鳥の保護は、これまで二国間条約・協定（米国・豪州・ロシア・中国）に基づく二国間協力のほか、多国間協力の取組として「アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略（1996-2006）」に基づき、渡り鳥の重要生息地の国際的ネットワークの構築等の取組が行われてきた。これらの取組をさらに発展させるため、2006年11月に「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」（渡り性水鳥保全連携協力事業、Partnership for the East Asian Australasian Flyway、「EAAF パートナーシップ」と略す）が発足した。

参照 HP

- ・ラムサール条約登録湿地市町村会議 HP

<http://www.ramsarsite.jp/ramsarconv.html>

- ・環境省ラムサール条約と登録湿地 HP

<http://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/index.html>

- ・ウトナイ湖サンクチュアリ HP

<http://park15.wakwak.com/~wbsjsc/011/>

- ・ウトナイ湖野生鳥獣保護センターHP

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kankyo-seikatu/utonaikohp/>

- ・東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ HP

<http://www.sizenken.biodic.go.jp/flyway/>

- ・北海道ラムサールネットワーク HP

<http://www.kiritappu.or.jp/center/ramsar/sites/uto.html>